

Vol 181 遺失

(フローネの小屋のポスト)

3月21日(日)
習志野市
秋津一丁目一番二の五〇一
丸井亜希子 ぼうえんきょうを見たら
一羽、1羽、かもめかよぶよ、全羽とんでいった。
(かもめ、かも、あおさぎ)

3月21日(日) 4年生、ごんご
市内 秋津1-2-301 5年生
木下千恵子、ぼうえんきょうをみた
た、くさんいた。1羽、かもめかいた。
首の長い鳥かいた。くんと長い首だった。



三つの通信は、三人の小学生の女の子のものです。「おいさん、今日は望遠鏡の日、いやなりんですか？」と言って来た。私はあわててパソコンを引っぱり出したのである。

谷津干潟友の会



↑ 写真中央の、丸い石がそれである。
木や草で全く人目につかないでいる。



私はそれを、父から教えてもらった。船橋大神宮の境内にある。本町通りという道路が突き当たった所である。昔は、船橋は官本町が中心であった。この石から、日本橋、灰田の道のりが測られたという。

船橋の「中心点」

ふかんど

第182号

1982.3.18

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市北方二丁目三番五十六
電話 0476-31-6668
編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
1980.6.3



セイタカシギの見張り

夏の毎日、同じ鳥を、同じ所で、同じ
時間帯で、同じ人向産が、同じ思いでこ
こに乗っていたのであった。京葉港でセ
イタカシギが繁殖した二年目の年のこと
であった。

字真の左、谷津干潟・京葉港で、最も
古くから、最も多種多様の記録字真をと
り続けていた藤富政郎氏。中央が、毎日
クラブのカメラマン平島彰彦氏。右が私
(森田)。巣の所から約七十米で雑談を
している。幕張の巣は、この直後発見。

撮影・字真提供 北原龍三氏
昭和54年7月 習志野市茜浜

最後の「ゴミの山」に挑む

△谷津干潟クリーン作戦モデル地区△

いわば、本丸である。美化とか、クリ
ーン作戦というとなんかこえはいいが、やってい
るその現実の有様は、それこそ生活廃棄物か
らなるありとあらゆるゴミとの「格闘」であ
る。勿論、今までこのゴミには誰でも手出
したこともなく、私産が初めてである。

片っぴしから拾い、次々と土ノウ袋につ
め込んでいくのである。それと堤防の上にか
つぎ上げ、さらに少しはなれた所に集めてお
くという、このくり返しである。いっしょ
にやってくれている学生の高木世司君は、使

う土ノウ袋の数を百と見ていた。それ
に対して私は、四百と見ていたのである。
双方が四倍とのひらきをとうてい計算して
いたのだ。

三月十八日に攻めを開始した。この
日はとりあえず、五袋ほどつめ込んだ。
ただ、残念なことには、私産は使える時
向のすべてを、このゴミの山の清掃にだ
げ向けることは出来ないのである。
石・ガラス拾い(地区内全域)、砂の掘
りくずし、土の層搬などを同時にしなけ
ればならぬからだ。又、時間があって
も、とてど方のいる作業なので、くたび
れてしまうのだ。一日、袋を十五〜二十ぐら

ふかんど

№183号

1982.3.19

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0476-51-1668
編集 木村田三郎

会費 年2000

創刊
1980.6.3

子供達がよく来る

きっと、子供達は口から口へと伝えていくのだろう。そして友達を連れて来るのかを知らない。みな、家は近いのであるが、どうしてこんなにもカニがめずらしいのか、私には意外だった。ましてや、「おじさん、干潟にカニがいるんですかあ？」などと聞かされた時は、ガッカリびっくりしてしまっただけである。

私は時々、気分転換というかひと息入れた時などに、子供とつき合ってカニをとってやる時がある。とりかあまりにも下手くそだし、カニの穴がいつぱいあって、どこもカニの穴であることも知らない。どこをどうやって掘ったらいいのか、全くわ

からな子供もあまぜいじりなのである。

話ばかりだが、とうぜんぐう前のこと。私が初めて、「観察会」に参加した頃である。そこで、リーダーのオタガ盛んに言っていたことは、「みんな、生きものをとったり、つかまえたりしてはいけません。いいでつかまさん、見ただけですよ」ということであった。だから、子供達は、バツタとカニと見るだけであった。リーダーの人は私の所にも来て、「森田さんとリーダーなんですから、ソノヨウニ言うて下さい」と言われた。私は、自分の子供時代を覚えてしまうと、口には出せなかった。

他の所ではどうか知らないが、バツタにしろカニにしろ、子供達によってつかまえたらず全滅、するようた所は、谷津干潟と京葉港においてはどこにもなかった。草地

を残したり、カニがすみやすいような干潟にするところも、大人の責任だと思った。大人はその為、どれほどやっていたらどうか。モデル地区で、むやみに殺せば私はどなっている。今、子供達とカニの触れ合いの場としての念ずるのみである。





2/14 木ガガモ、コガモ、ハシビロガモ、アオサギなどが観察できた。冬になってから観察に来たのは、今日が11回目なので、カモがこんなに多くまいるとは思わなかった。谷津干潟には、ハマビシも残してほしい。
津田沼、武田



この水では干潟に流
れ込むわけや、

風が吹けば、ゴミは水路
が落ちます。右はすぐ水路
ですから、干潟に入り、
きてしまうわけです。
ここは習志野市茜浜。習
志野トラックスセンターと東
水路の曲の所です。三週向
程前まで、かなりの曲ガン
リニスタンドから油がタレ
流して入っていました。写真
はその後のようちを見にい
った時に撮ったものです。
今も時々見まわっています。

コアジサシ・ミロチドリ・ コチドリ 繁殖調査

地面は砂と貝カラ、ヤシでごく少
石コロがある。

この辺一帯は、貝ヤカニの化石か
つぎ多く見つけられた。化石の形成時
代を調べてもらったが、比較的新しい
時代に来たものであったとのこと。

三種の渡り鳥の巣の大部分は、幕張
A・C地区に限られていた。京葉港で
コロニーが消滅してから二年目であ
った。上の写真の時は、まだコアジサシ
は卵を産む直前の時であった。

撮影・写真提供 北原龍三氏
昭和五十四年の五月 幕張C地区

かんぱつて下さい
私 たちもみなも大切にします。

佐久間 太郎

井上 大星一

石橋 和典

三井 生ひ

3月22日 朝 6時30分 快晴
ゆりかもめの群、~~数~~ 数ヶ
いっせいにとび立つさまは、朝日に
映えてすばらしい。

船橋市習志野台 4-84-1
津田 宝男

3月22日

この前、朝外に出たら
見たことのない鳥がいた。
顔がフクロウみたいで、羽が茶色と白の
ワミみたいな羽で、巨大だった。

2羽でいて、

こっちをくらんだ。

とってもゆかった。だから、この鳥の名前を散えて下さい!

秋津214-506

常岡 伸夫



「ほらっ、そう、そこく。ゆえ、ち
やんといたでしょ、坊やだっしょうぶよ
カニは小さいからあ、こわがらないでえ」。

「さあ、さういさしやい、うちへ帰るんで
すよあ。ったくまあ、しょうがない子ゆえー」。



ふかんど

第184号

1982.3.20

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0476-16668
編集 森田三郎

会費年2000

創刊
1980.6.3

やあ、これは“便利”なものが出来た

これで大助かりですね、
皆さんで大いに使おう。



習志野市・秋津五号公園。県立津田沼高
高側の水路に、橋がかかっているよば。

皆さん、ごらいたまいます。上の写真のよ
うに、ご待望の「公衆トイレ」なるものが出
来ました。よかった、よかった、本当によか
ったですねえ。

「フローネの小屋」からでよ、三百メート
ルともありません。女性の足でよ、三分どか
かりません（いやあ、これは失礼っし）。

そこでですねえ、一つ提案があるんですよ
。何を使わしてさうばかりではなく、私産
「谷津千鶴環境美化委員会」と「谷津千鶴友
の会」は、皆さんでトイレをきれいにしたり
、進んでトイレットペーパーが無かったらそ
つと猶えたりをすることにしたりのですが。

セイタカシギの見張り

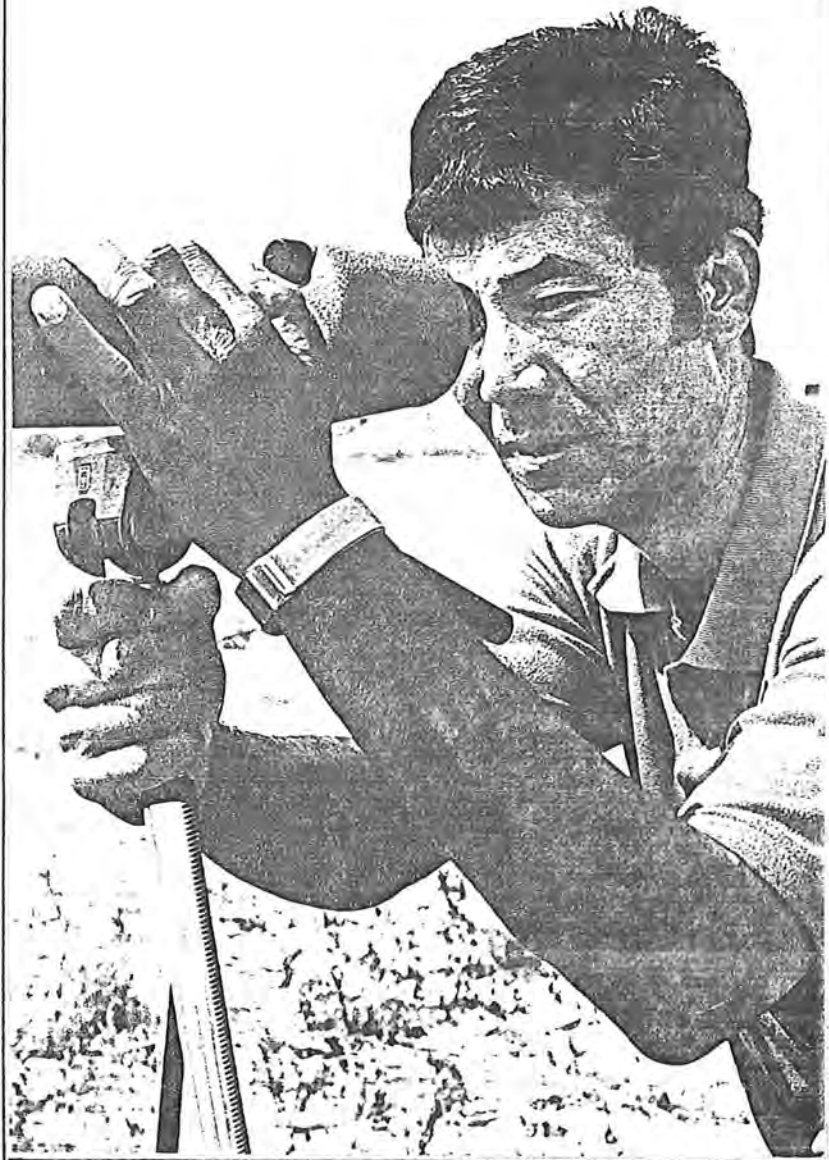
時々こうして、セイタカシギの親子の姿
を確認し、無事を見届けていたのであった
。日中は勿論、とくに、その日に行って着
くと同時に、そして、日が暮れて帰る時も、

その日の最後の姿を見届けて、暗くて広い
埋め立て地を町へと歩いていったのであよ。
毎日同じことのくり返えしである。

望遠鏡で見る時間は、ごくわずかであっ
た。要するに、異常はなかつたか、何か変
ったことはなかつたかと、ただそれだけを

確認していた。

この年、昭和
五十四年。習志
野市茜浜に繁殖
したセイタカシ
ギの卵は、四つ
失かえらなかつた。



撮影・宇真提供

北原龍三氏
S54.7 於茜浜

思い出のアルバム

あらんでうごかしてもきりがない橋みわを

4年 大塚清

何回も谷津に来たよ、望遠鏡で見ると
何回も初めて見た。

アチャコ 望遠鏡はいいよ、アチャコ

P.S. 望遠鏡はいいよ、アチャコ

今日初めて谷津に来たよ、アチャコ

望遠鏡のぞいてみたよ、鳥の様子もよく見えたよ、アチャコ

アチャコは、アチャコから来たよ、アチャコ

アチャコ (アチャコ) は、アチャコから来たよ、アチャコ

アチャコ

アチャコは、望遠鏡をいってとらねないよ、アチャコ?

アチャコは、アチャコから来たよ、アチャコ

アチャコとアチャコ

アチャコは、アチャコから来たよ、アチャコ



「すみません、写真
を一枚とらせて下さい
」と言ったり、「あ
ういやだあ、はずかし
い」と、上のように
顔をかくしてしまいま
した。
二人とも何回か会っ
て顔は知っていた。時
々こうして散歩に来て

、ジュースとかお菓子も堤防
の上へのせりかけている。
ここは「クリーン作戦モテ
ル地区」の所です。いろん
な人が、散歩や赤ん坊などとい
っしょに来てのんびりと時
をすごしていきます。少
なくとも前よりは、こ
ういう人達も紙クズな
どを落していきま
す。とはな
るべく

谷津干潟友の会

人観察会

三月二十一日(月)の時の
感想です。とても陽気の
良い日だったので、ずい
ぶんたくさんの方々が
通りがかりに観察して
きました。

ところが、望遠鏡は一
台しかなくて、一番上の
意見のように、時には行
列になっちゃいますのでし
た。それに、顔見知りの
かなり年配の女性にまか
せっぱなしでした。

ふかんど

第185号

1982.3.21

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市が北方二丁目三番八
電話(0476)1-1666八
編集 森田三郎

会費 2000

創刊
1980.6.3

チドリ科	ガンカモ科	サギ科
ハジロコチドリ	コブハクチョウ	ゴイサギ
コチドリ	オオハクチョウ	ハンフトゴイ
イカルチドリ	コハクチョウ	ササゴイ
シロチドリ	リュウキュウガモ	アカガシラサギ
メダイチドリ	アカツクシガモ	アマサギ
オオメダイチドリ	ツクシガモ	ダイサギ
オオチドリ	カンムリツクシガモ	チュウサギ
コバシチドリ	オシドリ	コサギ
ムナグロ	マガモ	カラシラサギ
ダイゼン	カルガモ	クロサギ
ケリ	コガモ	アオサギ
タグリ	ドモエガモ	ワシタカ科
シギ科	ヨシガモ	ミサゴ
キョウジョシギ	オカヨシガモ	トビ
トウネン	ヒドリガモ	ハイネロチュウヒ
ヒバリシギ	アメリカヒドリ	マダラチュウヒ
オジロトウネン	オナガガモ	チュウヒ
ヒメウズラシギ	シマアジ	ハヤブサ科
アメリカウズラシギ	ハシビロガモ	シロハヤブサ
ウズラシギ	アカハシハジロ	ハヤブサ
ハマシギ	ホシハジロ	チコハヤブサ
サルハマシギ	オオホシハジロ	コチウゲンボウ
コオバシギ	メジロガモ	チュウゲンボウ
オバシギ	アカハジロ	フクロウ科
ミユビシギ	キンクロハジロ	トラフズク
ハラシギ	スズガモ	コムミズク
エリマキシギ	コケウタガモ	ヒバリ科
コモンシギ	ケウタガモ	ヒバリ
キリアイ	クロガモ	ハマヒバリ
オオハシシギ	ピロードキンクロ	ツバメ科
シベリアオオハシシギ	アラナキンクロ	シヨウトウツバメ
ツルシギ	シノリガモ	ツバメ
アカアシシギ	コオリガモ	アトリ科
コアアシシギ	ホオジロガモ	アトリ
アオアシシギ	ヒメハジロ	カワラヒワ
オオキアシシギ	ミコアイサ	マヒワ
カラフトアオアシシギ	ウミアイサ	ヒヨドリ科
ウサシギ	カワアイサ	シロガシラ
タカフシギ	カモメ科	ヒヨドリ
メリケンキアシシギ	ユリカモメ	モズ科
キアシシギ	セグロカモメ	チゴモズ
イソシギ	オオセグロカモメ	モズ
ソリハシシギ	フシカモメ	セキレイ科
オグロシギ	シロカモメ	セキレイ
オオソリハシシギ	カモメ	ハクセキレイ
ダイシャクシギ	ウミネコ	セグロセキレイ
ホウロクシギ	ズグロカモメ	マミジロタヒバリ
シロハラチュウシャクシギ	クビワカモメ	コマジロタヒバリ
チュウシャクシギ	ミツユビカモメ	ヨーロッパビズイ
ハリモモチュウシャク	ゾウガカモメ	ビズイ
コシャクシギ	ハジロクロハラアジサシ	セジロタヒバリ
ヤマシギ	クロハラアジサシ	ムネアカタヒバリ
アマミヤマシギ	ハンブルククロハラアジサシ	タヒバリ
タンシギ	オニアジサシ	ホオジロ科
ハリオシギ	オオアジサシ	シベリアジュリン
チュウジシギ	ハシフトアジサシ	オオジュリン
オオジシギ	アジサシ	ホオジロ
アオシギ	ベニアジサシ	コジュリン
コシギ	エリグロアジサシ	ヒタキ科
セイタカシギ科	コシジロアジサシ	ツグミ
セイタカシギ	ナンヨウマミジロアジサシ	ヒタキ
ソリハシセイタカシギ	マミジロアジサシ	ツグミ亜科
ヒレアシシギ科	セグロアジサシ	ジョウビタキ
ハイロヒレアシシギ	コアジサシ	ノビタキ
アカエリヒレアシシギ	ハイロアジサシ	ウイスリ
ツバメチドリ科	クロアジサシ	コシシキリ
ツバメチドリ	ヒメクロアジサシ	オオヨシキリ
タマシギ科	シロアジサシ	ツグミ
タマシギ	ウイナ科	セッカ
ミヤコドリ科	クイナ	ムクドリ科
ミヤコドリ	オオクイナ	ムクドリ
カイツブリ科	ヒメクイナ	カラス科
カイツブリ	ヒクイナ	ハンホツカラス
ハジロカイツブリ	シマクイナ	ハシフトカラス
ミミカイツブリ	マミジロクイナ	
アカエリカイツブリ	シロハラクイナ	
カンムリカイツブリ	バン	
ハタオリドリ科	ツルクイナ	
ニユウナイスズメ	ホオバン	

満腹感に
干潟のようじに
かかるまで

ほんとにどうなんです。
つくづく残念というか、勿体というか、
喰い意地張ってる。感じですが事更だ
からしようかな。

わけを説明すると、三月二十五日の「
いとしぎ」の定食は、アジのカラ揚げで
あった。殆んど毎日昼食はここで食べて
いる。コーヒー飲んで「ボケー」として
いると、「森田さん、ランチ食べべいで
しよ」と、パートの奥さんに半ば催促す
る如く私に言った。いつより、ちよっ
と時間が早かったのである。まあ、いい
やあと思っ、「うん、そろっし」と言
ってしまった。干潟での作業のアトの
空腹感”をより少なくする為には、出来

だけ昼食の時間をずらしておく必要があった。
出て来たアジは二十cmぐらい。魚だけだっ
たら「三口」そんだ。頭をがっポリくわえ込
んで体を喰い切った。その一瞬の感振から
、「これはいいヤツだ、うんまっ」と思っ
た。こまかいこと按ぎの動物的感情の判断で
ある。他の二匹と同じ調子で食べた。
腹が小さくれたアトの、あの感じは、誰にと
ってもとていい気持ちである。心も大らかに
なる。そこだ、私が言いたいの。その満足
感に自分の全てを集中、埋没させて、しばらく
く小一時間ほど余り体を使わなつていたの
である。ごはんをおいしく食べらぐれたアトは
、なあさけそう思う。

トドメのコーヒーを飲んだら干潟へ直行。
モデル地区へ着いて、着がえて、スコップ一
輪車を手にしたら最後、そのの二十分をこな
いうちに、あの満腹感にフットンデミマウノ
その時はゴシンのことしか考えていないのだ。

調査者
石川 勉 氏

ふかんど

第186号

1982.3.23

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市北方二丁目三五ノ六
電話(0476)1-1166六八
編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
1980.6.3

今度四年になります。機軸工学関係を専攻している。住んでいるところは、谷津干潟のすぐ近くのマンションである。

1) 昼は大学に通い、夜は警備会社に「ガードマン」としてアルバイトに精を出している。その向をぬって、干潟の作業にきて汗を流している。

2) ここは、クリーン作戦モデル地区である。彼は、私のしていることは全て共にやっている。やっている時、二人とも余リ口をきかない。面倒くさいし、だいたい疲れるので、口をきくのがかたがたしているのである。

3) 字直りとは、今まで水の来なかった所に、水溜まりやクレーク(川)を作っている作業である。土の中から、ビニール・石・カラス・くつ下・ワイヤーなど、いろいろなゴミが続々と出てくる。スコップを入手して、ガチャツと音をたてたり、スコップがゴミの為に通らなくなることも常である。殆んど一回土をすくうごとに必ず、何らかのゴミがある。そのつどゴミを拾い出し、土を一輪車に積んでゆく。一輪車に積んだ土は、厘んでいって砂浜や干潟の造成に使われる。

4) ここはもと、ビニールや発泡スチールなどがスキ間もない程捨てられ、遠くから見ると雪が降ったように白かった。土の中をそよよと歩き出すと、初めの頃はどろどろと手を付けていりのか途方にくれてしまった所である。

5) しかし、「きんいにしなけいば、きんいにらない」のである。字直りは、バケツを持って一つく大小の石を捨てている。水にふれると、干潟・砂は生き返ってゆくのである。



いっしょにやっております 高木世司君 (学生)

チドリ科	ガンカモ科	サギ科
ハジロコチドリ	コブハクチョウ	ゴイサギ
コチドリ	オオハクチョウ	ハジプトゴイ
イカルチドリ	コハクチョウ	ササゴイ
シロチドリ	リュウキュウガモ	アカガシラサギ
メダイチドリ	アカツクシガモ	アマサギ
オオメダイチドリ	ツクシガモ	ダイサギ
オオチドリ	カンムリツクシガモ	チュウサギ
コバシチドリ	オシドリ	コサギ
ムナグロ	マガモ	カラシラサギ
ダイゼン	カルガモ	クロサギ
ゲリ	コガモ	アオサギ
タゲリ	ドモエガモ	ワシタカ科
シギ科	ヨシガモ	ミサゴ
キョウジョシギ	オカヨシガモ	トビ
トウネン	ヒドリガモ	ハイネロチュウヒ
ヒバリシギ	アメリカヒドリ	マダラチュウヒ
オジロトウネン	オナガガモ	チュウヒ
ヒメウズラシギ	シマアジ	ハヤブサ科
アメリカウズラシギ	ハシビロガモ	シロハヤブサ
ウズラシギ	アカハシハジロ	ハヤブサ
ハマシギ	ホシハジロ	チゴハヤブサ
サルハマシギ	オオホシハジロ	コチョウゲンボウ
コオバンシギ	メジロガモ	チュウゲンボウ
オバンシギ	アカハジロ	フクロウ科
ミュビシギ	キンクロハジロ	トラフスク
ヘラシギ	スズガモ	コムミスク
エリマキシギ	コケワタガモ	ヒバリ科
コモシギ	ケワタガモ	ヒバリ
キリアイ	クロガモ	ハマヒバリ
オオハシシギ	ビロードキンクロ	ツバメ科
シベリアオオハシシギ	アラナミキンクロ	シヨウトウツバメ
ツルシギ	シメリガモ	ツバメ
アカアシシギ	コオバガモ	アトリ科
コアアシシギ	ホオジロガモ	アトリ
アオアシシギ	ヒメハジロ	カワラヒワ
オオキアシシギ	ミコアイザ	マヒワ
カラフトアオアシシギ	ウミアイサ	ヒヨドリ科
クサシギ	カクアイサ	シロガシラ
タカブシギ	カモメ科	ヒヨドリ
メリケンキアシシギ	ユリカモメ	モズ科
キアシシギ	セグロカモメ	チゴモス
イソシギ	オオセグロカモメ	モス
ソリハシシギ	ワンカモメ	セキレイ科
オグロシギ	シロカモメ	セキレイ
オオソリハシシギ	カモメ	ハクセキレイ
ダイシャクシギ	ウミネコ	セグロセキレイ
ホウロクシギ	ズグロカモメ	マミジロタヒバリ
シロハラチュウシャクシギ	クビワカモメ	コマミジロタヒバリ
チュウシャクシギ	ミツクビカモメ	ヨーロッパビズイ
ハリモモチュウシャク	ソウゲカモメ	ビズイ
コシャクシギ	ハジロクロハラアジサシ	セジロタヒバリ
ヤマシギ	クロハラアジサシ	ムネアカタヒバリ
アマミヤマシギ	ハシロクロハラアジサシ	タヒバリ
タシギ	オニアジサシ	ホオジロ科
ハリオシギ	オオアジサシ	ジベリアジュリン
チュウジシギ	ハシフトアジサシ	オオジュリン
オオジシギ	アジサシ	ホオジロ
アオシギ	ペニアジサシ	コジュリン
コシギ	エリクロアジサシ	ヒタキ科
セイタカシギ科	コシジロアジサシ	ツグミ亜科
セイタカシギ	ナンヨウマミジロアジサシ	ジョウビタキ
ソリハシセイタカシギ	マミジロアジサシ	ノビタキ
ヒレアシシギ科	セグロアジサシ	ウイス
ハイロヒレアシシギ	コアジサシ	コヨシキリ
アカエリヒレアシシギ	ハイロアジサシ	オオヨシキリ
ツバメチドリ科	クロアジサシ	ツグミ
ツバメチドリ	ヒメクロアジサシ	セッカ
タマシギ科	シロアジサシ	ムクドリ科
タマシギ	クイナ科	ムクドリ
ミヤコドリ科	クイナ	カラス科
ミヤコドリ	オオクイナ	ハシホソカラス
カイツブリ科	ヒメクイナ	ハシフトカラス
カイツブリ	ヒクイナ	
ハジロカイツブリ	シマクイナ	
ミミカイツブリ	マミジロクイナ	
アカエリカイツブリ	シロハラクイナ	
カンムリカイツブリ	バン	
ハタオリドリ科	ツルクイナ	
ニューナイスズメ	オオバン	
スズメ		

調査者
石川 勉 氏

突然お手紙をさし上げるお礼をおわび致します。私は近所に住むエホバの証人という聖書の伝道者です。おたずねしましたが、お尋ねしたので、お手紙に託して御質問の目的をお伝え致します。

最近の世の中の状態をごらんになり、どのように感じられるでしょうか。物質的に、文化的にも、とても恵まれた時代ですが、なぜ、このように犯罪、暴力、不道徳、子供の非行など多くの問題が、ますます増加してゆくのでしょうか。

聖書には「急ぎの時の時」を知らせる現在のような苦難の時代が来ることを約1900年前に予告してくれました。(マタイ24:1-5) 神は、この世の世を創造された。神(エホバ)は、永遠なる神の王国(ダニエル2:44)による正義と公正の支配の下に、老死や死から免れ、地上に大きく変化させられ、その近きことを確約してくれました。

この世は決して神話や夢物語ではなく、明らかな実現する事柄であり、しかも、この世は私たちに、この命を得る機会をたたくこと、今選択したければ、たゞならぬと、とても重要な、しかも緊急な事柄なので、私たちがエホバの証人の懸念に伝達していただき、おたずねです。(マタイ24:14)

とても信じられぬと思われ、これは、その世を証明する事実を聖書から、この命で確約し、ごらんになりませんが、エホバの証人は、喜んで無償で、ご援助をせしめた。この時、同封のビデオの場所にご連絡下さいれば、嬉しく思います。

私の部屋のドアの前には、「谷津干潟 愛護研究会事務所」という一目でわかる看板がある。又、私達のしていることは

、近所の人も知っていました。この方も知っていました。ことだろうと思う。か、名前が書いてない。で、森田、当会の代表として王国会館へ行くか。

ふかんど

第187号

1982.3.24

谷津千潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二ノ五ノ六
 電話 0476-51-6668
 編集 森田三郎

会費年2000

創刊
 1980.6.3

「谷津千潟友の会」、公言したからには何か何でも、物理的にもそこにいなくてはならない。三月二十二日のこと。で森田一人しかりない。少し遅れて二十歳さんが来た。彼も長い時間いらぬないのだ。人はひっきりなしに通っている。

天気が良いのでかなりの人が散歩に来るのである。私は千潟作りをしたくってしようがない。時々千潟に来た顔見知りのおばあさんがいた。「あのあすいません。この望遠鏡誰でも自由なんです。よれで、ここに置いときますから、ゆ、来た人に何か話してやって下さいよ、何かと」と。「ハイ、くわかりました」。



「谷津千潟友の会」

日曜日・祝日・祭日にやっています。午後一時から三時。とっていますか、この時間だけは必ずいるという事です。

でもゆえ、こゝを更行していくというのは、ほんとに大変なんですよー。



始めて見たか今度は子供にも是非みせたい。

秋津 2-2-1-6
宗徳園

2/10 雨でこられなかったが 22日 月曜日 快晴にこられ 汽船と
手合せ、小で思ひ立ち 一人がぶらぶら来た。また 漁が来る。居ら
れど思ひ高枝側よりぶらぶら来く、森田と此に 運よしお食ひ 来る
例通り 一人が掃除と至土向、小からぬきから 齋として 和茶、子供達
師夫婦、一人がと割りにはじめたが多し、廻つて来るとは説明して
あげると、行せ自分知しん者か 在土向、それか又 今度は子供達と
終りませと言つて下り 橋、時間1つで はしりか多し 在り、小鴨の
多し 在り、草原では 土くれ 雲雀が 鳴つてゐる。3時止し 在り、
森田が此に 居ると言ふ おしとす。これか又 一団向に 此に 在り、
杉村 芽子。

ハマシギを見たとき ずらりと川つにならんで きれい
だった。 何たいは 始めてハマシギを見た。おもしろ
かった。 5年 大塚 教子

ハマシギを見た時 ぼろぼろと みていにつら...と

草はらの緑とだんだんと色が 谷津干潟に来る人と一週ごと
目立ち始め、カニが穴から出て に増えて来ております。
くる日やその数も多くなって来 干潟の作業と「友の会」、
ました。そして、それに連れて 此れからが大変です---



何だか子供たちは、こういうものかとい
と気に入ってようです。
谷津干潟とそのまわり、森田が知ってい
るだけでと六ヶ所あります。うまい具合に
、干潟にはひろくな流木がたくさん流れ
ついでいて、子供たちがこういうものを作

って遊ぶには、奥にとってこの所なので
す。この写真の家？、とどの一つです。甲
へまぐり込んだり、はいつくばって寝っこ
ろかったりしてよろこんでいるようです。
火遊びなど、危険なことをしている以外
、注意はしておりません。そこいらにある
ものを利用して、服を汚し手をドロだらけ
にしなから運んで来て、何と考えながら
作っているのでしょう。
私にも同じような経験があります。思え
ば、子供たちがこういうことをする所は、
全くと言ってよほどありません。大人が指
導してではなく、自らやって、悦びに入
るといふその体験は、私は大切と思つてゐる。

ふがんど

第188号

1982.3.26

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市北方三丁目三番六
 電話 0476-21-1666
 編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
 1980.6.3

主婦の助っつ、大助かり

「丁さん、ありがとうし」

主婦の丁さんは、すぐ近くのマンションに住む方です。

先一回の「谷津干潟クリーン作戦」にカ
 リ参加していただきました。クリーン作
 戦開始の時は、大変に骨折ってくわたう
 ちの一人でもありません。しかし、ある事
 情により、お勤めすることになり、ヤ
 ズもなく干潟の清掃活動には殆んど参加出
 来なくなっていました。

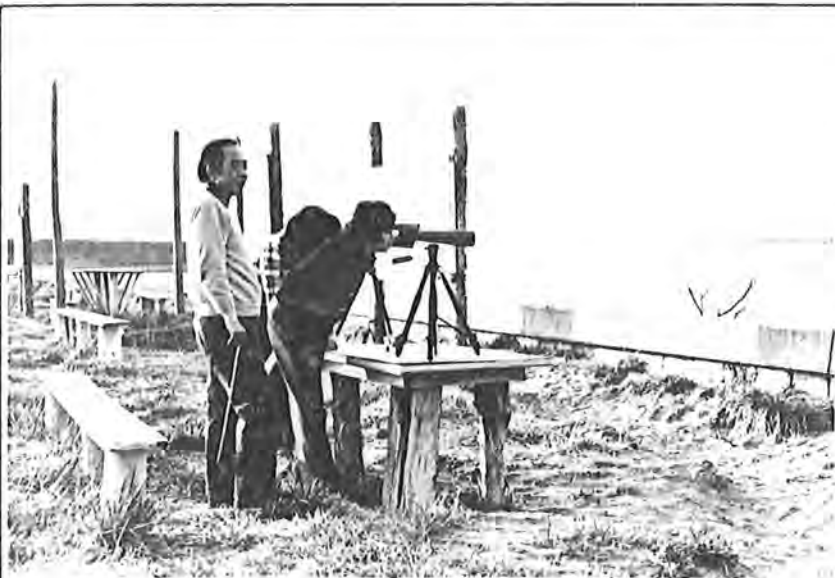
テパート関係なので、日曜・祭日は全
 くと行ってよい程休みがありません。普
 段の日か休みかと外なので。大學生
 の子供が二人（男一・女一）います。一
 家の主婦のみならず、「大黒柱」でもあ
 るのです。

丁さん、常日頃より、「谷津干潟クリ

ン作戦に協力できなくて、本当に申し分
 けありません。いつかすまないとはい思ってお
 ります。その代りに、何かのカンパとか、何
 かのことので私にできることでしたら、その時
 はおっしゃっていただけないでしょうか。一
 しと、そんなふうに言うのがロクセなので
 す。

今なぐ、とう全てを打ち明けていいでしょ
 う。更には、テーブルとベンチの件で、県企業
 庁とぶつかった時、又、干潟のゴミを企業庁
 に持っていかせ、大蔵省、日本道路公団・前
 田建設・竹中土木、そして習志野市にも持っ
 て行ってもらうことになったこと、全ては四
 名の主婦の電話の力によるものでした。ゴミ
 を捨てて住民とぶつかった時も、陰で支えて
 くわたのは、みんな丁さんを名乗る主婦達だっ
 たのです。三月二十七日、なれないスコップ
 で、土の中のゴミを黙々と拾い分けていました。





瀬藤祝氏・東映の教育映画部の監督さんです。
三月十六日(木)、谷津千瀉クリーン作戦の日でした。

国電津田沼、午後二時に約束したものの、森田は朝

から何一つ口に入らず、クリーン作戦に参加したため空腹で気分が悪くなるくらい。汚れた体を洗ったら食事の為に屋外そうなので、高木世司君に先に行ってもらって説明などを頼んだ。彼と一人で、人との応対が出来たようになってい



ところ、ここで映画の内容は、白痴の少年一人、友産の少女、老人が主な登場人物。そして、「千瀉ってこんな

にいいもんなんだよ、というもののこと。話していたら、「森田さん、あなたのドキュメンタリー作りたいわ」と監督。でも今回は違う。

3月19日(金)
今日ひたひたりに谷津ひかたに来た。立看板などいっそう立派になっていた。ひかたにはいっそも何かあるやうだが私の眼には良く見えなかつた(ちなみに私は右0.8左0.5です)

話はわかるけど
ライオンズ愛好会ハンザーイ!
ていどきよす、いなる人中心の制作のため
物、たし楽器の持っているまはいます
TEL (52)7904
秋津1-24 302 梁谷まゆ

谷田 慎悟 井村 知成
北留間もとみ

通信箱の使い方に、上のような使い方があっていいじゃないですか。「面白い。もっとこういうものが増えてもいいと思っています。落し物、捜しもの、交換物、求人、その他何でもどんどん使ってください。水はいい。

三ヶ所に設置されている通信箱には、それぞれ二冊ずつのノートが入れてあります。盗られたり、イタズラされて時々なくなることもあります。その時は新しいノートとすぐに補充しています。

私産は是非木更津に行くよう促されました。そこが中心となるでしょう。

Vol 189 遺失

ふがんど

第190号

1982.3.28

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二丁目三五番六
 電話(0476)511-6668
 編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
 1980.6.3

こういう体験は、やがて、
 将来、この少年産を又え
 る時がある。つーー。

この少年産は、成長し、大人になって
 人生のさまざまな試練に、いく度と、又
 いく度と出会うであろう。

こういう「良いこと」をしたからとい
 って、人生のさまざまな苦しみから、多
 くの人よりも軽減されたわけでもない。
 そして、他の人よりも、その為に、多く
 の平安や幸福が与えられたわけでもない。
 世の多くの人々と同じような、失敗、孤
 独、失望、不安、悲嘆の如くにおちい
 ちたわけである。この子産にも、運命の「特

別な配慮」は何もないのである。

しかし、「オレはさう、駄目かど知れない
 ー、人が昏寝静った頃、深夜、声を殺
 し、眼もぬぐった後から、こみ上げてくる
 熱き涙で、人知れぬ夜に、ふと、自分
 がかつて少年時代に思いを込めて救ってやっ
 た、あの野鳥の日々を、何気なく想い出すか
 ど知れないのだ。」「ーああさうだ、あの
 日あの時、ああいうことがあったんだなあー
 ー、あの鳥、オレ産のおかげで、元氣
 になつて空へようこんで飛んでいったなあー
 ー。皆さんの中にも、癒えのあつた方さう
 だろう。そんな時、「生きるとする力」がこ
 み上げてくる。そんなことも直ぐのモノで、強
 力がよみがえつてくつのである。少なくとも
 、私の場合はさうだった

よかったねコサギ

習志野市内の用水路で、つばさ
 にはがして動けなくなつてい
 たところを市内の小学生たちに助け
 られた一羽のコサギが、同市谷津
 の谷津遊園で治療を受けて全快、
 二十九日、同遊園に面した谷津干
 潟から三か月半ぶりに大空に放た
 れた。鳥にとっては致命傷ともい
 えるつばさにはがしてあったコサ
 ギは、全快した羽で元氣よく舞い
 上がり、恩人の小学生たちや
 谷津遊園関係者にお礼をいうよう
 に二度、三度と上空を旋回して姿
 を消した。小学生たちは「元氣で
 ね、さようなら」と手を振り送っ
 ていた。

コサギを助けた小学生たちは、
 同市立大久保東小を卒業したばかり
 の最上誠史、海老原孝、市角勝
 康、杉山房典、増田和典君(いず
 れも十二歳)の五人。六年三組の
 クラス仲間だった。
 鳥等君たちは、昨年十二月十日
 夕、同市原敷の水田地帯に野鳥を



コサギを助けた小学生たち(右から)と新井さん(左から)と鳥等君

観察に行った際、用水路にうつく
 まつて動けなくなったコサギを見
 つけた。左のつばさにはがして
 出血していたため、助け上げた。
 しかし、治療方法がわからず、鳥
 等君の両親の勧めで谷津遊園(本
 多一基園長)に保護してもらっ
 た。

習志野・谷津遊園

助けた子供らに見送られ大空へ

親身の治療3か月半…全快

コサギは、三月半ばに日本に飛
 来して繁殖し、冬には東南アジアに行
 く渡り鳥。体は純白で、クチバシ
 が黒い。放たれたコサギも、今秋ま
 で元氣で日本を過すことだろ
 う。

この子達の体験は、人間形成で最も大切なものの一つだ

コサギの「パク」青空へ

3カ月ぶり傷いえ 獣医と協力手厚い治療

習志野の学童が保護

昨年暮れ、重傷を負ってうずくまっていた保護鳥のコサギを一人の少年が見つけて助けあげ、獣医の元へ運んだ。獣医も少年と手紙や電話で連絡し合いながら手厚い治療を続けた。コサギはすっかり元気になり、約三カ月後の二十九日、獣医らの見守る中、少年の手によって春の青空に放たれた。

習志野市屋敷五丁目、同市立大久保東小学校六年生、島等誠史（はたどう・まこと）君（三）が、倒れていたコサギを見つけたのは昨年十一月十日の午後四時ごろ。

自宅近くの水田に野鳥好きの同級生たちと鳥を観察していたところ、水路に白い体長三〇センチくらいの鳥がうずくまっていた。見ると左の翼の付け根を傷めていた。けがをした翼を締め、痛そうにじっとしていた。

手のひらに乗せると、汚れた水のためにヘドロのようなにおいがした。「このままでは死んでしまう」と、丁寧に抱いて家に運んだ。助け上げた時、一度だけ誠史君の指をちぎって突ついたので「パク」を付けた。

「パク」のけがはひどく、家では治せないと思った誠史君はその晩、近くにある京成谷津遊園の新井藩（しげの 獣医）に治療を頼んだ。新井さんは快く引き受けた。園内の動物病院に連れて行って調べると、翼の根元の関節の骨が折れていた。幸い骨は折れていなかったが、この部分は人間のヒジに当たる大切なところで重傷だった。すぐ治え切っていた体をストーブで暖め、治療にかかった。



元気に放たれたコサギの「パク」。右端が島等誠史君、左端が新井藩獣医。川谷津遊園運動場にて

エサを与えることも長べらうとしかかったが、二日後、やっと小アジ二匹を食べた。約一週間後、手厚い看護のおかげであつて三匹の小アジを口にするほどに回復した。間もなく動きも活発になつたので広い水禽（すいきん）舎に移し、再び空を飛べるよう体力づくりを始めた。新井さんは誠史君に治療経過を手紙や電話で伝え、安心させた。

経過は順調だった。最近になつて傷もすっかり治り、体力も十分に回復した。「そろそろ、放してやってもいい時期だ」と新井さんらは判断した。

二十九日午後、同園運動場で、誠史君が新井さんらの見守るなか「パク」を放した。三匹は谷津干潟の空を二度、三度、飛び方を思いたすようにゆつくりと旋回し滑っていた。

57.3.30 朝日新聞

鳥の事故は増えている。近年、谷津干潟周辺は急激に開発が進んでいきます。これからも、続々と建物が増えるので、鳥の事故は増えている。

元気に舞い上がったッ

谷津 羽痛めたコサギ回復



回復したコサギを放つ島等君と友人たち

獣医が熱心に治療すると三カ月、コサギはすっかり回復し、二十九日、少年の手で同園から谷津干潟の向かって、飛び去った。少年と胸をなで、元気に羽ばたいた。

「コサギはすっかり回復し、三カ月か放されたコサギは、上空を三、四回大きく舞いながら仲間の方に飛んでいって、元気に羽ばたいた。」

コサギをじつとみつめていた少年は、「よかったな、パク。」少年がつけた愛称。もう仲間から離れるなよ」と心の中でつぶやいた。

この少年は、習志野市屋敷五の五の二、同市立大久保東小学校六年、島等誠史君（三）。

昨年十二月十日午後四時ごろ、自宅近くの水田にみる鳥を見に友達五人と出かけた時、水田わきの下で痛めた羽を飛ばすようにうずくまっていた鳥をみつめた。

島等君は「サギの種類の違うが、なんて言うのかな」と思いつつ、が、なやまを飛ばして飛んだ。が、大事に抱えて連れ帰ったが、途中、飛べないコサギは、腹と思つたのが島等君の手にかかっていたという。「この時から愛称を「パク」とつけたんです」と笑った。

自宅に連れて行ったのは、島等君が治療の仕方かわからず、島等君は、動物園のある習志野に治療を頼むことにし、すぐさま同園運動場動物飼育係の獣医、新井藩さん（三）を訪ねた。この鳥はコサギを空助なところこの鳥はコサギで、捕獲、飼育をしてはいけな

鳥とわかり、島等君らは、新井さんに任せるとなった。

新井さんは子供たちのやさしい気持ちを感じては、と、熱心に治療。間もなく、鳥が園とわかつたが、コサギは、二、三日、食事をまっていたにすぎなかった。

新井さんが小アジを与えてからはすっかり元気を取り戻し、同園内の水きりうへに放し、自然に戻るための体力づくりを始めること約三カ月。新井さんは、自然に放してやる準備は出来たと判断した。

この間、島等君らは「パク」は元気になったかな」とたまたま同園園に通って全休を祈った。

これをきっかけに同級生を結成した「野鳥の会」のメンバー七人と父母も参加しての月午後一時、すっきりと晴れ上がった谷津干潟に向かう放鳥した。

島等君は、即ちを旋回する「パク」を見て「何か迷っているみたい。早く下田の下りて、エサを食わればいいのに」と、可愛いコサギに呼びかけていた。

海や人工海浜と多岐の鳥が毎日行き来して、このので、なくなるとは決してなりませんが、

釣り糸や釣り針による負傷は、私産もよく見かけるところです。事故をなくす具体的名案は、今のところこれといってありません。観察舎が出来れば治療してやれるのだが、

57.3.30 毎日新聞

建つてくると、道路に至る所、道端を至るので、車もますます多くなつて来ます。

とくに、谷津干潟は殆んどすべてが渡り鳥であり、

ふかんど

第191号

1982.3.29

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方三ノ三五六八
 電話 0476-116666
 編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
 1980.6.3

こういう「サービス」もしております

園児と共に……

習志野市立秋津保育園の、保母さんとその園児たちです。保母さんに聞いたら、天気の良い日には時々干潟に来て遊ぶとのことでした。

森田が「フローネの小屋」へ立ち寄った時、たまくく出会ったのでした。

今の私は毎日、「いそしぎ」で昼食をした後、「フローネの小屋」の方をちょっと見まわす程度にして、あとは、午後一時から四時半頃まで谷津三丁目の前の「クリーン作戦モテル地区」へ行ってしまう。だから、殆んどすべてを、干潟の清掃、改修や草刈りに打ち込んでいます。

谷津干潟自然緑地やベンチの所には、二つの方向から時々こうした園児たちが

来ているのです。一つは、船橋市の若松団地から。もう一つは、習志野市の秋津・香澄団地からです。

別に鳥を観察に来るといっているのではなく、ただ、こういう所に来ると、子供たちがとても生き生きとし、よろこぶのですと保母さんの話でした。現に子供たちを見てみると、保母さんがこれと言わずと、草むら、砂地、ベンチなどで遊んでいるのです。

散歩の人などが残していったゴミを拾う場合、私は彼らに望遠鏡を見せてやりました。一応は保母さんの言った通りに見てめずらしかげんご、反対がわかるのぞき合ったりして面白がっているのです。いわゆる「おどちゃい」になってしまっているのです。よれも、望遠鏡の一つの使い方なのかとも知れませんね。カニをとってやったり、おおよこ遊びでした。



57年3月14日

渡り鳥の交通事故



「タヒバリ」という名の鳥です。冬の埋め立て地、すべてが茶色の季節、広い草原によく見かけました。

「ピピッ／＼」と鳴く声と飛ぶその姿は、晴れたった冬の空に、ひときりかぐわしく思えたものでした。静まりかえった、人

影のなり冬の埋め立て地。枯草の匂いのする草原とタヒバリは、埋め立て地を知る者にとっては、決して忘れたことなく、永くの中に生き続けようであろう。

しかし、ここ数年、このタヒバリの姿も、ひと頃よりはめっきり少なくなってきた。埋め立て地の工事が進むにつれて、やがて、あざうしい鳥になってしまおうでしょう。

3.27 自然がすくなくない ----- !!
人間がもっととりくんで自然をふやしていかなければ -----。

57
3/27 はいめでたい「シキ」を見ました。かんげい!!
口は「しが」もとてもおもしろいと思えました。
これから「シキ」がたかさんいたのもおどろきました。
とてもきれいだと思います。
「シキ」もきれいで「す。鳥はたかさんいますか、もうすこし、ひかたをきれいにすることか大切だ」を思っています。ゴキブリはちんちんかこいに入れて少
ち帰ったり、そういう心かかけかたには、鳥をみる(かんげいする)しかはなれと思いません。
物のためには、私たちが一人一人かきもつけなければいけません。

松戸市 女子

谷津埋立云々の件気にかつています。
野鳥の会 決はこの際この鳥の会を頑張つて下さい
野鳥の会 和加山奥支部 田上宇 3/28

上の文中、「ダイシヤクシギ」……とありますが、この鳥は、シギの仲間でも最も大きな鳥です。

全国的にも、非常に数が少ないのです。他の野生動物に比べると、生物向の争いで強いが、捕食にはとても弱く、東日本では常にいるのは、谷津干潟ぐらいしかありません。

Vol 192

Vol 193

Vol 194 遺失

コマーシャルではありません、住民の方の差し入れです

ふがんど

第195号

1982.4.3

谷津千潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二丁目三五ノ六
 電話 ☎ 五三三―一六一六六六八
 編集 木村 田 三 郎

会費 年2000

創刊
 1980.6.3

おばあさんです

「おめえさんがたはえれえよあ、ドシヤ降りだつて、雪が降ったつてミズレが降ったつてやつてんだかんあ、てえのいじゃあでけえよあ、んださんあ働きとんだよあ、すげえべえこんゴミ、昔、から皆んな投げて捨てて来たんだかんあ、よくまああやんなあおめえらあはよあ、んで体さあ丈夫かあ、こん袋おオラが持つてよあちつとど動かゆえべなあ、てえした力持ちだなあおめえらあわよあ、すげえ年人力あんだなあ、おっぺしてえ、んでよあ上さあかつぎ上げちやあだかんあ、」

千潟のすぐそばに住んでいて、かなり



写真は、堤防の上に置かれたジュース・コーラ・サイダー。この下にゴミの山がある。

のお年のおばあさんの言葉である。

時々、おばあさんは、ジュース、サイダー、コーラなどを栓抜きといっしょに持って来て、「おめえさんがたよあ、ひといきりついでよあ飲んだらいいべえよあ、」と言つて、堤防の上に置いていくのである。堤防の上に二人座つて、休みながら話をする時もある。

「あーれ、びっくりしたさんあ、誰べかあと思つちやつたよあ、こんな晩オまでえやつてんのかあおめえらあわは、もう夜うだんべなあ、暗くてえわかんなかつたよあ、ゴミ見えんのかあ」。千潟から堤防の上へ姿を現わした私産を見て、おばあさんはそう言った。月明かり、星明かり、街灯の明かりを頼りにして、やつていふことが何回かあったからである。

この前、おばあさんに、「こんちわあ、今日はあつたかくていい日だゆえ、気持ちいいゆえ」と言つたら、「ちつとあつたかくゆえよあ、おめえさんわあ力仕事してかんだよあ、いじゃゆえきやああつたけえはずゆえべなあ」という言葉が返つて来た。

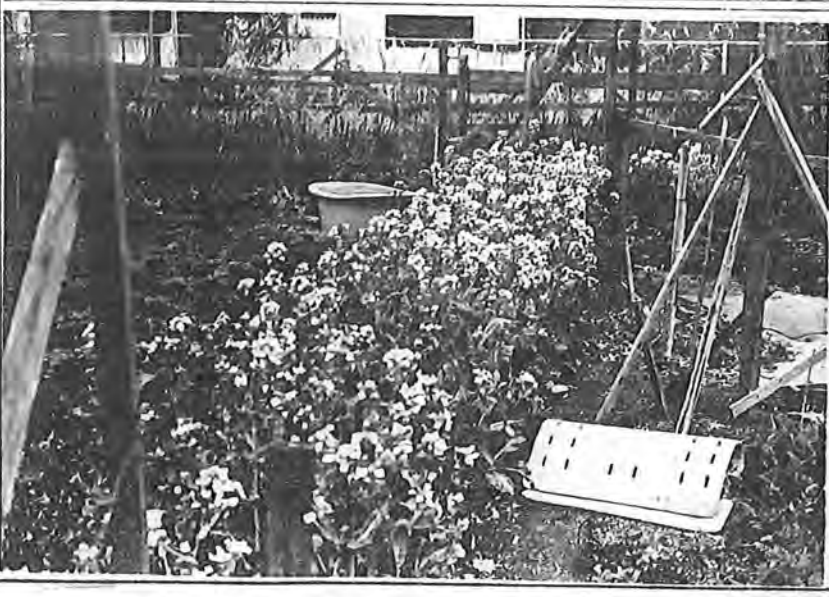
ところで、千潟の作業の前、そして最後に、あまりつまみからといって飲みものを、かく飲むのは考えものであつた。腹がケボゲホしてしまつて、かつたよく、けたよくならからである。おばあさん、ありがとう。

チドリ科 ハジロコチドリ コチドリ イカルチドリ シロチドリ メダイチドリ オオメダイチドリ オオチドリ コバシチドリ ムナグロ ダイゼン ゲリ タゲリ シギ科 キョウジョシギ トウネン ヒバリシギ オジロトウネン ヒメウズラシギ アメリカウズラシギ ウズラシギ ハマシギ サルハマシギ コオバシギ オバシギ ミユビシギ ヘラシギ エリマキシギ コモンシギ キリアイ オオハシシギ シベリアオオハシシギ ツルシギ アカアシシギ コアオアシシギ アオアシシギ オオキアシシギ カラフトアオアシシギ クサシギ クサシギ カブシギ メリケンキアシシギ キアシシギ イソシギ ソリハシシギ オグロシギ オオソリハシシギ ダイシャクシギ ホウロウシギ シロハラチュウシャクシギ チュウシャクシギ ハリモモチュウシャク コシャクシギ ヤマシギ アマミヤマシギ タンシギ ハリオシギ チュウジシギ オオジシギ アオシギ コシギ セイタカシギ科 セイタカシギ ソリハシセイタカシギ ヒレアシシギ科 ハイロヒレアシシギ アカエリヒレアシシギ ツバメチドリ科 ツバメチドリ タマシギ科 タマシギ ミヤコドリ科 ミヤコドリ カイツブリ科 カイツブリ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ アカエリカイツブリ カンムリカイツブリ ハタオリドリ科 ニユウナイスズメ スズメ	ガンカモ科 コブハクチョウ オオハクチョウ コハクチョウ リュウキュウガモ アカツクシガモ ツクシガモ カンムリツクシガモ オシドリ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ シマアジ ハシビロガモ アカハシハジロ ホシハジロ オオホシハジロ メジロガモ アカハジロ キンクロハジロ スズガモ コケワタガモ ケワタガモ クロガモ ビロードキンクロ アラナミキンクロ シノリガモ コオムシガモ ホオジロガモ ヒメハジロ ミコアイサ ウミアイサ カワアイサ カモメ科 ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ウシカモメ シロカモメ カモメ ウミネコ ズグロカモメ クビワカモメ ミツユビカモメ ソウゲカモメ ハジロクロハラアジサシ クロハラアジサシ ハシグロクロハラアジサシ オニアジサシ オオアジサシ ハシフトアジサシ アジサシ ベニアジサシ エリグロアジサシ コシグロアジサシ ナンヨウマミジロアジサシ マミジロアジサシ セグロアジサシ コアジサシ ハイロアジサシ クロアジサシ ヒメクロアジサシ シロアジサシ クイナ科 クイナ オオクイナ ヒメクイナ ヒクイナ シマクイナ マミジロクイナ シロハラクイナ バン ツルクイナ ホオバン	サギ科 ゴイサギ ハシブトゴイ ササゴイ アカサシラサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ カラシラサギ クロサギ アオサギ ワシタカ科 ミサゴ トビ ハイロチュウヒ マダラチュウヒ チュウヒ ハヤブサ科 シロハヤブサ ハヤブサ チコハヤブサ コチヨウゲンボウ チヨウゲンボウ フクロウ科 トラフズク コムミズク ヒバリ科 ヒバリ ハマヒバリ ツバメ科 ショウトウツバメ ツバメ アトリ科 アトリ カワラヒワ マヒワ ヒヨドリ科 シロガシラ ヒヨドリ モズ科 チゴモズ モズ セキレイ科 キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ マミジロタヒバリ コマジロタヒバリ ヨーロッパビンスイ ビンスイ セジロタヒバリ ムネアカタヒバリ タヒバリ ホオジロ科 シベリアジュリン オオジュリン ホオジロ コジュリン ヒタキ科 ツグミ亜科 ジョウビタキ ノビタキ ウグイス コヨシキリ オオヨシキリ ツグミ セッカ ムクドリ科 ムクドリ カラス科 ハシボソガラス ハシフトガラス	66 570 4 330 4 15 126 1 3265 1 124 3
---	---	--	---



まだ使えます
谷津三丁目の前の干潟で
す。干潟では時々あふこ
です。この堤防の上には、
「ゴミを捨てないで下さい
。法律により罰せられます

しなっている、市の看板
があつた、そんなのへっ
ちゃらなんです。
とにかく、習志野市良
の中でき、この辺の住民
はかなりの「根性」があ
るんです。
だいたい前、一人で清掃
を始めた頃。植木取人が
大量の切り枝を干潟の中
へほうり投げ、山と積ん
で火を放っていました。
「やめて下さい」と言った
ら、「人が燃やすのに何
を文句がある、生意気だ
、かたく言うてぶんな
ぐるどまっ」と言われま
した。自転車はすぐ拾い
上げました。



お小くすの菜の花畑
自宅の前です。農家の人
の土地を借りて、ネギ・イ
チゴ・ダイコン・ホウレン
ソウを作っている。「これ
から野良仕事の季節、い
とお小くすは言いました。

調査者
石川勉氏

Vol 196

Vol 197

Vol 198

Vol 199

Vol 200 遺失